

## 品目別レポート（ながいも、かんしょ）

〔ながいも〕

### ■品目説明

農林水産省による作物統計（2020年8月28日発表）によれば、2019年のながいも収穫量は前年比11%増の14万9,700トンとなった。収穫量の多かった産地は、北海道（74,400トン）、青森県（55,800トン）、長野県（6,730トン）などとなっている。

内閣官房に設置された農林水産業の輸出力強化ワーキンググループによる「農林水産業の輸出競争力強化戦略（H28年5月）」によれば、ながいもは台湾、米国（特に西海岸）の華人社会において、薬膳料理の具材やながいもジュースとして人気がある。消化吸収に優れ滋養強壮になるといった機能面を訴求した食材として用いられているが、とろろ料理など日本料理としての食べ方はあまり広がっていないことから、食感の良さ等日本産の品質の高さをPRし、全米、華僑の多いシンガポール及びその周辺国への販売を拡大させたいとしている。

### ■貿易概況

▼表1：日本のながいも輸出

（単位：ドル、トン、%）

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
台湾	11,868,000	2,441	8,626,586	2,641	9,766,318	2,728	13.2	3.3
米国	8,038,086	1,745	8,402,450	2,585	8,295,343	2,483	△ 1.3	△ 3.9
シンガポール	2,406,402	439	2,053,234	559	1,959,245	517	△ 4.6	△ 7.5
香港	110,009	19	225,711	56	406,341	106	80.0	89.3
オランダ	13,540	2	44,535	15	123,790	58	178.0	286.7
全世界	22,542,952	4,662	19,636,062	5,929	20,772,911	5,944	5.8	0.3

注：対象はHSコード 0714.30

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

19年の日本のながいもの輸出動向をみると、金額は前年比5.8%増の2,077万ドル、数量は同0.3%増の5,944トンであった。

主要輸出国・地域の動向をみると、1位の台湾は、金額が前年比13.2%増の976万ドル、数量が同3.3%増の2,728トン、シェアでは金額で47.0%、数量で45.8%を占めた。2位は米国で、金額が同1.3%減の829万ドル、数量は同3.9%減の2,483トンだった。3位はシンガポールで、金額が同4.6%減の195万ドル、数量は同7.5%減の517トンだった。

## ■海外事情

### ●台湾

▼表2：台湾のながいも輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	10,276,265	2,417	9,621,652	2,750	9,402,379	2,583	△ 2.3	△ 6.1
中国	1,498,731	485	1,269,379	430	1,370,591	436	8.0	1.4
ベトナム	114,905	79	117,156	60	81,922	47	△ 30.1	△ 21.7
全世界	11,889,901	2,981	11,008,188	3,240	10,854,892	3,066	△ 1.4	△ 5.4

注：対象はHSコード 0714.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

台湾の19年におけるながいも輸入は、前年比1.4%減の1,085万ドル、数量ベースでは5.4%減の3,066トンとなった。

輸入相手国の動向みると、1位が日本で前年比2.3%減の940万ドル(シェア86.6%)、数量ベースでは、同6.1%減の2,583トン(同84.2%)となった。2位は中国で前年比8.0%増の137万ドル、数量ベースでは同1.4%増の436トンとなった。

ながいもは台湾でも生産されているが、断面を触るとかゆくなる、色も紫色のものがあるなど、日本産とは異なる芋型塊茎の野生種である。台湾では「山薬」といわれるほど滋養強壮に効く健康食品として珍重され、薬膳料理のスープや、チキンスープなどの具材として消費されている。日本産のながいもは、品種改良された断面がきめ細かく白いながいもで、塊茎は長く棒状に育つのが特徴で、特に深く掘り長く作る技術がある北海道産や、青森県産のものが、台湾では根強い人気がある。健康志向や薬膳人気は強まっており、日本産ながいも(生鮮、冷蔵)に対する一定のニーズは今後も維持されるとみられる。

### ●米国

▼表3：米国のながいも輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
ジャマイカ	23,501,267	11,473	24,435,927	9,771	24,403,740	11,904	△ 0.1	21.8
ガーナ	9,286,343	8,411	11,329,474	9,942	12,878,129	11,016	13.7	10.8
コロンビア	5,749,856	7,747	9,224,105	10,696	8,733,067	9,426	△ 5.3	△ 11.9
コスタリカ	8,825,346	9,861	9,001,919	6,913	7,629,753	6,061	△ 15.2	△ 12.3
日本	6,770,319	1,660	7,817,478	2,689	7,125,943	2,404	△ 8.8	△ 10.6
全世界	60,625,304	44,469	70,985,011	47,322	69,035,792	48,735	△ 2.7	3.0

注：対象はHSコード 0714.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

19年のながいも輸入額は前年比2.7%減の6,903万ドル、数量ベースでは同3.0%増の4万8,735トンだった。主要輸入相手国・地域別にみると、1位のジャマイカが前年比0.1%増の2,440万ドル、数量ベースで21.8%増の11,904トン。2位のガーナが1,287万ドル（13.7%増）、日本は5位で712万ドル（8.8%減）だった。

米国でながいもは“Chinese Yam”や“Mountain Yam”などと呼ばれ、ヤムイモに分類される。米国で一般的にヤムというときスイートポテトを指すことが多いが、実際は全く違う作物に分類される。中南米やアフリカ諸国から輸入されるのは主にヤムイモで、上位5か国中「ながいも」を輸出しているのは日本だけと推測される。ながいもは米国での認知度はまだ低く、米系スーパーマーケットで販売されていることは珍しいが、カリフォルニア州などアジア系住民が多く住むエリアの米系スーパーマーケットでは季節によって販売されていることもある。

米国西海岸ではアジア人が多く、特に中国系・台湾系コミュニティで薬膳料理としてながいもの需要があるが、それ以外ではまだ認知度は低いので、近年の健康ブームや日本食ブームに合わせたレストランでの新メニューの提案や、高級オーガニック系スーパー等で健康的な日本食材としての使用方法を提案していくなど、取り組み次第ではさらに輸出を拡大できる余地はある。

## 【かんしょ】

### ■品目説明

内閣官房に設置された農林水産業の輸出力強化ワーキンググループによる「農林水産業の輸出競争力強化戦略（H28年5月）」によれば、日本産のかんしょは甘味が強く、国内では規格外とされる小サイズのもものが調理しやすいサイズとして好まれ、香港・台湾を中心に輸出されている。かんしょの食べ方として「焼き芋」は日本では一般的であるものの、東南アジアでは知られていない。このため、日本産かんしょの強みである甘さを活かせる「焼き芋」を食べ方と併せてPRすることにより、シンガポールやマレーシアなど東南アジアへの輸出を拡大するとしている。

2019年、日本国内におけるかんしょの作付け面積は3万4,300haで4%減。10aあたり収量は2,180kgで、前年産に比べ2%下回った。収穫量は74万8,700トンで前年産に比べ4万7,800トン（6%）減少した。主な産地は鹿児島（26万1,000トン）、茨城（16万8,100トン）、千葉（9万3,700トン）、宮崎（8万600トン）など（農林水産省「作況調査（かんしょ）第1報」）。

### ■貿易概況

19年日本のかんしょ輸出額は、前年比25.0%増の1,555万ドル、数量ベースでは同23.5%増の4,347トンとなった。主な輸出相手国は、首位が香港で前年比15.7%増の7,589万ドル、2位はシンガポールで同34.4%増の420万ドル、3位はタイで同71.7%増の216万ドルとなった。

▼表4：日本のかんしょ輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	5,264,168	1,599	6,557,381	1,921	7,589,622	2,220	15.7	15.6
シンガポール	1,096,565	318	3,131,227	805	4,207,424	1,102	34.4	36.9
タイ	913,597	242	1,262,893	293	2,168,559	538	71.7	83.6
台湾	859,400	312	916,922	289	814,452	230	△ 11.2	△ 20.4
マレーシア	386,230	155	449,748	169	554,571	204	23.3	20.7
全世界	8,651,230	2,652	12,444,227	3,520	15,551,098	4,347	25.0	23.5

注：対象はHSコード 0714.20

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

## ■海外事情

### ●香港

19年の香港のかんしょ輸入額は、前年比3.9%減の1,127万ドル、数量ベースでは同29.8%増の4,858トンとなった。主要輸入相手国の1位は日本で前年比11.8%増の809万ドルでシェアは71.8%だった。2位はインドネシアで前年比59.7%減の94万ドル。3位はベトナムで32.8%増の89万ドルだった。

▼表5：香港のかんしょ輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	6,261,239	1,761	7,244,829	1,930	8,098,686	2,204	11.8	14.2
インドネシア	494,905	333	2,340,878	684	943,700	924	△ 59.7	35.1
ベトナム	598,321	602	674,369	638	895,885	1,059	32.8	66.0
韓国	601,016	186	542,736	151	463,956	146	△ 14.5	△ 3.3
中国	408,864	263	279,607	118	300,336	327	7.4	177.1
全世界	9,048,483	3,399	11,732,039	3,743	11,271,001	4,858	△ 3.9	29.8

注：対象はHSコード 0714.20

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

香港では電気炊飯器にケースをつけて蒸かしイモにして食べることが一般的で、炊飯器に入り、かつ蒸す時間のあまりかからない小さいサイズが好まれている。高品質であっても小さいサイズのは日本ではむしろ人気がなく、相場も安いことから、香港へ比較的安く提供できており、需要もある。

ジェトロ「現地市場価格調査 (2020年4月)」によると、富裕層向け現地系店舗での種子島産安納芋が1個30香港ドル (約430円) で売られている事例などがある。

本レポートに関する問い合わせ先：  
日本貿易振興機構（ジェトロ）  
農林水産・食品部 農林水産・食品課

〒107-6006  
東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル  
TEL：03-3582-5186

**【免責条項】**

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る自体が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。